

No.63

け
や
き

特
集

T
O
P
I
C
S

R
E
P
O
R
T

左京図書館新館長からメッセージ
えほんのひろば、図書館で発表会

こんな本はいかが？

図書館友の会けやき ニュースレター 2021.7.2

特 集

こんな本はいかが？

—あなたにおすすめしたい10冊—

癒された本や考えさせられた本。けやき会員やゆかりの方が、おすすめの本を紹介します。今年出版された本から、隠れた名作まで、10冊が揃いました。この特集をきっかけに、本の世界を広げていただければうれしいです。

エンド・オブ・ライフ

佐々涼子著 集英社インターナショナル 2020年

『Yahoo! ニュース本屋大賞 2020年ノンフィクション本大賞受賞! 「命の閉じ方」をレッスンする。』という帯に魅かれて、この本を手に取りました。取材先は、京都の在宅医療を行う渡辺西賀茂診療所。そこに勤務していた男性看護師が自身の病で看護する側から看護される身となった話を軸に、在宅医療を受けながら最期を迎える方々の話や難病で寝たきりになった筆者の母と献身的に介護する父の話も交わり、家族や自分の終末期の在り方を考えさせてくれるノンフィ

クションです。約7年間、筆者は寄り添うように取材されています。数人の方が亡くなるまでの記録なので、重く悲しい面もありますが、その方達が人生を最後まで力強く生き抜いた記録でもあります。もし、肉親が、自分が、身近な大切な人が、死に直面した時どのようにそれを受け止め、受け入れていけるだろうか。「生ききる」にはどうしたらいいのだろうか。考えるきっかけをもらいました。また、高齢の母と同居している私は、在宅介護に漠然とした不安を持っていました。この本から、在宅医療の実情やそこに関わる医療関係者との信頼関係の大切さを学び、不安が少し和らぎました。

そして、「生きてきたようにしか死ねない」という言葉が一番心に刺さっています。当たり前の日常を丁寧に、一瞬一瞬を大切に、ご縁を大事に、生きていきたいと強く思いました。「死」という重いテーマではありますが、多くの方に読んで頂きたいです。
(会員 M)

そして、ぼくは旅に出た。 はじまりの森 ノースウッズ

大竹英洋著 あすなろ書房 2017年

昨年、大竹英洋氏が北米大陸中央北部湖水地方で野生生物を追った20年間の集大成である写真集『ノースウッズー生命を与える大地ー』が、土門拳賞を受賞した。この本は、大竹氏のノースウッズでの20年に及ぶ撮影の旅の始まりの三か月間を生き生きと語った400ページ余りに及ぶエッセイ。

著者は、大学卒業を機に自然写真家になることを決意し、学生時代に感銘を受けた写真家ジム・ブランデンバーグに弟子入りし野生のオオカミを撮影することを目指して、彼が住むというノースウッズ(北米大陸カナダとアメリカ合衆国の国境地帯に広がる湖水地方)に向け日本を旅立つ。写真集の中のジムの自宅を記した一枚の絵地図と写真だけをたよりに。彼は、広大な森と湖のノースウッズを、たった一人シーカヤックで旅し、たまたま出会った人々の助けと僥倖に恵まれて、無事にその写真家ジムのもとにたどり着く。

そして、三か月の間、彼や彼の友人の著名な冒険家ウィル・ステイーガーと暮らしを共にする中で、その振る舞いや示唆に富んだ言葉の数々から、生きていくことや写真家になるということについて、実に多くのことを学ぶ。それは、まさに彼が他の誰でもないひとりの写真家として歩み続ける旅の始まりでもあった。著者をとおして知ることができる写真家や冒険家の姿は、ノースウッズの素晴らしい自然描写とともに、我々読者にも多くのことを教えてくれる。(会員 永井)

クララとお日さま

カズオ・イングロ著 土屋政雄訳 早川書房 2021年

裕福な家庭では子供は大学へ行くまで家の中でタブレットを使って学習して暮し、人工知能搭載のAIフレンド(AF)を持つ、そんな近未来の話です。クララというAFがある病弱な少女の家に購入され、共に暮し、少女の大学入学で

別れを迎えるまでを描いた小説です。クララは太陽のエネルギーで動くので、お日様に対して敬虔な思いを持っています。一時は命が尽きそうだった少女はクララのお日様への祈りのあと少しずつ健康になります。

この小説の魅力は、状況や場所の説明は一切無く、あくまでもクララの意識に沿って一人称での話が続いていくことにあります。読者は何の予備知識も無く著者の用意してくれた世界にAFのクララと一緒に目覚め、生きるようになります。クララの経験を通して、日常的な大気汚染、おそらく遺伝子进行操作して個人の能力を上げる危険な「向上処置」、一握りのエリートしか仕事も十分な報酬も無さそうな格差社会、夫婦・家庭のあり方、AIがどれだけ生きた人間の代わりになれるか、そして愛とは、といったテーマがさりげなく描かれています。

その巧みさも感心するのですが、もう一つの魅力は登場者の賢さです。無垢な心のクララと共に日常のいかにもありそうなことについて、こう考えればいいのかとか、こう振舞えばいいのかというようなことを、一緒に考え直すことになります。

最後は、頭上に広がる青空がお日様の恩寵を暗示し、この著者らしい終わり方となっています。

(名古屋市 渋谷道子)

車夫

いとうみく著 文春文庫 文藝春秋 2019年

主人公吉瀬走(きつせそう)は高校2年生で陸上部の長距離ランナー。走り方がすばらしいと、監督からも一目おかれている存在だ。ところが、父親が突然失踪し、ふた月経たないうちに母親までもいなくなってしまった。追いうちをかけるように、高校から授業料滞納の通知が来る。頼る者のない走は「経済的理由」で高校を退学した。身体も心も動かなくなったある日、部活の先輩前平が、人力車の「車夫」の仕事を紹介してくれ、寮にも入ることができた。走の「車夫」としての生活が始まる。

仕事先「力車屋」の親方、神谷力や女将の神谷琳子さん、先輩たちの暖かく優しい心づかいの中で走は居場所を見つ

けていく。今、スマホや SNS、ユーチューブなんかで発信するツールはある。けれど人間関係は機械では置き替えられないもの。人力車は、生身の人間が身体ごと「車夫」に預け、自分の行きたい所へ乗せていってもらい乗りもの。人と人の関係を抜きにはできない小さな空間でもある。そんな個と個の関係の中で、フッとこれまでの鬱積を話したくなるのかもしれない。走はけっしておしゃべりではないけれど、17 才にして自立せざるをえなかった苦い過去や、ランナーとして「走るのが好き」な特性を生かし、この仕事にけんめいに生きていく姿はととも爽やかだ。

「力車屋」の人達の過酷な過去であったり、お客のいきさつであったり、一話一話完結しながらも登場人物はず〜とつながっている。「力車屋」という走の居場所は前平や琳子さんはじめ先輩「車夫」達の居場所でもある。

「車夫」の物語は三部作になっていて、父や母のことも徐々にわかってくる。ぜひ一度、人力車に乗ってみたい気にさせる一冊である。 (左京区 岡本)

もの言えぬ時代

戦争・アメリカ・共謀罪

内田樹ほか著 朝日新書 朝日新聞出版 2017 年

この本は、朝日新聞に連載されたインタビュー記事「問う『共謀罪』」が新書化されたものです。読もうと思った理由は、戦争経験者が消えゆくなか、先ごろ亡くなられた半藤一利さんの意見を知りたく思い、大きな憤りをおぼえた当時を振り返って、現在と対比してみたかったからです。

ご存知のとおり「共謀罪」法は、監視社会につながるとする大きな反対のうねりのなか、2017 年に通常なされない強引な方法を経て成立しました。この本の中で、半藤さんは 1944 年の東京大空襲の経験から「これからは『絶対』という言葉は使わない」と、有名な言葉を述べられています。そして、日本はポイント・オブ・ノーリターンを超えたと。

この本には、「共謀罪」法に肯定的な意見を持った方も登場するので、高校生にはぜひ読んでほしいと思います。異なる意見に耳を傾け、自分の頭で判断することが 18 歳から選挙権を行使する者にとっては大事だからです。

例えば、9 条を信仰している人たちが戦争を引き起こす

とする三浦瑠麗さん。憲法の国民主権、基本的人権の尊重、平和主義のうち、国民主権が最も大事だと教わったそうです。意外なところに考え方の違いがあるのが分かりました。一番大切なのは個人の尊重です。

このほか、タレントのパックンや、任命拒否された日本学術会議会員の加藤陽子さんも登場します。

監視が強化されつつあり、戦争法シリーズの立法が未だ続いているなか、少し前の識者の意見に触れてみてください。 (左京区 XYZ)

民主主義とは何か

宇野重規著 講談社現代新書 講談社 2020 年

政治学者である著者は、民主主義について押さえておくべき基本を、歴史の流れの中で分かりやすく説明していきます。民主主義は、2500 年以上の長い歴史を持つが、ここ 2 世紀ほどの間で肯定的に語られるようになったに過ぎないと指摘します。

本書では、著者の深い学識と公平なものの見方が随所に感じられます。著者は、民主主義の名の下に多くの過ちがなされたことも事実だけでも、歴史の風雪を乗り越えて発展してきたそれなりの実体があること、その実体とは、自由で平等な市民による参加と、政治権力への厳しい責任追及であることを具体的に説明します。

本書は、今日の民主主義は、ポピュリズムの台頭、独裁的指導者の増加、AI をはじめとする技術革新、コロナ危機という四つの危機に直面しているという認識から出発します。そこで問われているのは、民主主義の力によって格差を縮小し、平等を確保することができるのか、人と政治をつなぐ新たな回路を見出すことは可能か、人間の人間らしさ、個人の尊厳をいかに正当化できるか、パンデミックのような緊急事態に民主主義は対応できるのか、などです。

民主主義の今後は平坦ではないかもしれないが、いくつもの苦境を乗り越えて少しずつ前に進んでいくと信じる、といった著者の指摘には、大きな共感を覚えます。参加と責任をどう自分の問題として捉えるか、改めて考えさせられる書物です。 (左京区 はる)

穴

ルイス・サッカー著 幸田敦子訳 講談社 1999年

スタンリー・イェルナッツ Stanley Yelnats。前から綴っても後ろから綴っても同じ名前がおかしくて大好きで、代々イェルナッツ家の息子はスタンリーと名付けられた。スタンリーも、父さんも、じいさんも、ひいじいさんも。ひいひいじいさんは、片足のジプシーばあさんから豚を盗んで、ばあさんから子々孫々にいたるまでの呪いをかけられた。そのせいでツイてない代々のスタンリーたち。まずい時にいつもまずい場所にいる。辛いことばかり。だけど辛いことがあったとき、全部「あんぼんたんのへっぼこりんの豚泥棒のひいひいじいさんのせい」にできるというのはいいもんだ。4人のスタンリーたちはめちやくちツツイてないくせに、いつも希望を失わない。

太っちょで友達もいない、いじめられっこの少年スタンリー。やっぱりまずい時にまずい場所にいるために、無実の罪で矯正キャンプに送られる。黄斑とかげやガラガラヘビがいる、一滴の雨も降らない不毛の地で、毎日毎日一日一個大きな穴を掘らされる。それはなぜか？

物語は時を行きつ戻りつし、ひいひいじいさんやひいじいさんの話も語られていく。

少年がかすかな希望を目指してついに動き始めたとき、ばらばらだったジグソーパズルのコマがそれぞれの穴に収まり、大逆転で見事な絵となり完成する。少年はなぜ動いたのか。代々の不幸をどう変えたのか。そしてその結末はどうなる？

ニューベリー賞など多くの賞を総なめにした、子供だけでなく大人の心も捉える希望あふれる作品です。

(左京区 I)

できそこないのラヴ・ロマンス
サリンジャー選集2 若者たち(短編集I)に収録

J.D.サリンジャー著 刈田元司・渥美昭夫訳
荒地出版社 1968年

おすすめの本を紹介して下さいと言われ、軽い気持ちで引き受けたものの、しばらくして少し困った状況である事に気がついた。私は読んでいる本が偏りすぎているし、おすすめできるほど理解しているかどうか怪しいからだ。実の所、内容すらそんなに覚えていない。

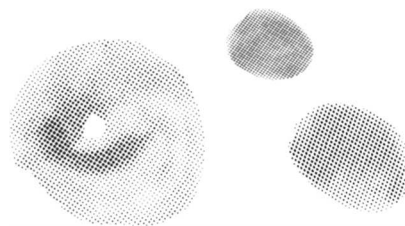
おすすめを紹介するにあたって、まず困難なのが、どの作品を選択するかどうか。一番影響を受けている作品は反社会的な人間だと思われかねない。そう思われたい年頃はどうに過ぎている。では他の作品はというと、なんだかありきたりすぎて、コイツつまらない奴だな。っと思われる可能性がある。それはごめんだ。

運良く、丁度良い作品を見つけたとしても、次の問題が生じてくる。つまり、分かりやすくその作品の筋を説明する必要があるということだ。例えば、ある男が写真について考え、本当の写真とは一つの対象を捉え続ける事だと定義し、拳句、何もない空間すら撮り始める話なんだ、とか。四畳半に迷い込んだ男が、黒髪の乙女をモノにするために奮闘する話なんだぜ、とか。せいぜい私に表せるのは、そんな程度だろう。

こんな話を聞いた相手が、ああそれは面白いね、今すぐ図書館で借りて、読んでみるよ。もう一度そのタイトルを教えてくださいませんか？ とはならない。

以上が私がおすすめの本を紹介できなかった理由であり、私がおすすめしたい作品のストーリーである。

(京都市 K)



地形の思想史

原武史著 角川書店 2019年

3年ほど前、書店でたまたま手にした雑誌に「新連載 地形の思想史」とあった。浜名湖畔に「プリンス岬」と呼ばれた場所があり、今の上皇陛下が皇太子時代、一家で静養に訪れていた企業の保養所があったという。著書自ら、保養所だった建物に足を運び、間取りや関連資料、新聞記事を参考に、なぜ御用邸ではない場所に通ったのか、思いを巡らせる。「皇太子夫妻は時代の歩調に合わせるようにして、核家族にふさわしい空間を『岬』に確立させた」。こんな視点があるのかと、ふだん読まないその雑誌を買った。

2年ほど後、淡色の富士山を表紙にあしらった「地形の思想史」が書店に並んだ。目次には「岬とファミリー」に続き、「島と隔離」「麓と宗教」…とある。ハンセン病患者の隔離政策やオウム真理教事件など、取り上げる出来事はよく耳にする、あるいは知らないわけではない、という内容ばかり。それだけに、なぜその出来事が起きたのかを地形から読み解くという視点によって、史実の見え方も変わるのかと教えられる。そして、歴史をとらえ直す方法はまだまだあり、視点は地方にこそ埋もれている可能性に気付く。

奥多摩を舞台にした「岬と革命」。読売新聞の新米記者だった渡邊恒雄氏が、共産党の山村工作隊のアジトにたどり着いて命の危険にさらされるが、後に作家となる高史明氏の判断で助かる場面がある。学術的な思想史には疎い私だけれど、1人の人間の思想がどのようにかたちづくられるのかを知る上でも、示唆に富む一冊だった。

(左京区 S・R)

ちいさい言語学者の冒険
子どもに学ぶことばの秘密広瀬友紀著
岩波科学ライブラリー259 岩波書店 2017年

五十の手習いの外国語、週に一回のペースでは十年やってもなかなか身につかない。ところが二歳の孫はどんどん言葉が増え、文で話すようになってくる。改めて不思議に思っていたところに出会った本。言語学者である著者が、ことばの習得の過程で子どもの頭の中で起こっていることを見せてくれる。著者のお子さんらが幼児期に発する面白いことばが例になっているのだが、そのやりとりが微笑ましい。思わず吹き出すようなエピソードから、子どもがことばの規則を自ら発見し、それを試し、さらにことばの仕組みや成り立ちに関心を持っていく様が語られる。

例えば、「死ぬ」を「死む」という5歳。確か、うちの長女もそう言っていて、なぜ間違うのかなと思っていたが、子どもはそれまでに得た語の活用から規則を見出して、それを当てはめてみた結果だという。この謎解きにびっくり。また赤ちゃんが犬も猫もワンワンと言う、よくある例。ここから子どもが単語の意味の範囲を推定する原則が説明される。さらに「しりとり」ができるということの意味など、興味深い話ばかりで楽しく学べた。

子どもは真似だけでことばを身につけるのではなく、自分の納得するやり方でことばの仕組みをつかんで行くという。それは私たちが子どもの時に辿った道。著者の楽しい「ことばの観察」に倣って、私も孫のことば習得の旅を観察してみよう。さらに外国語学習の道中に起こす「間違い」にも、その言語の仕組みならではの面白い気づきがあるかも。こちらの観察も楽しみになってきた。(会員 サナ)

けやきの
本棚

No.63

ボートやのくまさん

フィービ・ウォージントン作
こみやゆう訳 福音館書店 2020年
「パンやのくまさん」などでおなじみの
シリーズの、久しぶりの続刊。今作では、
妹のスージーと一緒にボートで物や人を運
ぶお仕事をします。朝起きて、仕事の準備

をし、まじめに仕事をこなしてお金をいただき、食事をきちんと
とって、眠くなったらベッドに入る。これだけのことなのに、く
まさんの日常は満ち足りてみえます。妹と一緒にボートの屋根の
上で食べるランチが、なんともすてき。小さなボートの家は居心
地よく整えられ、スージーの趣味か、過去作よりインテリアのテ
イストが甘めでかわいい。(会員 S・A)

TOPICS

左京図書館

市村前館長さん、ありがとうございました

山田新館長さん、どうぞよろしく

2016年度から左京図書館館長を務められた市村守氏が4月1日付で転出され、新たに山田晃久氏が着任されました。市村前館長には5年間、けやきとともにたくさんの行事にご一緒いただき、陰に日向に支えていただきました。この場を借りて、感謝申し上げます。山田新館長からは、着任にあたりメッセージをいただきました。

本年4月1日付で、左京図書館長に就任いたしました山田晃久と申します。どうぞよろしくお願いたします。

左京図書館は、平成11年5月の新築移転以来、「お楽しみ会」や「赤ちゃん絵本の読み聞かせ」、「おとなのための語りを楽しむ会」等「けやき」の皆様の全面的なご支援ご協力をいただきながら、「利用者にとって、使いやすく、居心地のいい図書館づくり」を進めてまいりました。

しかし、2020年の冬以降は左京図書館においても、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じ、多くの制約がある中で図書館の役割を果たせるよう活動してまいりました。

今後も先行きは不透明ではございますが、ウィズコロナ時代において、誰もが気軽に図書館を利用していただけるよう、そして一層皆様のお役に立てるよう全力で取り組んでまいります。

今後とも、お力添えをいただきますようお願いいたします。

山田晃久

REPORT

図書館で発表会

図書館の資料を活用した成果を展示する「図書館で発表会」が、2月12日から3月14日までの約1カ月間、左京図書館で行われました。11回目となる今回は、小学生から大人まで5名の参加があり、図書館の資料を参考にして作った作品やレポートが展示されました。

四季折々の草花が美しい絵手紙や、繊細で美しいレース編みの雪の結晶が壁面を彩ります。ガラスケースのなかには、さまざまな柄の手作りマスクや色鮮やかな草木染のエコバッグ、丁寧に作られた豆本がお行儀よく並んでいます。また、小学校で本を紹介する活動をまとめたレポートもあり、図書館の資料を趣味や学びに役立っていることがわかりました。

今回は「図書館で発表会」の展示の横に、下鴨中学校1年生によるおすすめの本の紹介が貼りだされ、にぎやかなコーナーとなりました。図書館が本を借りる場所としてだけでなく、本を通じて人々が集い、交流する場であることの大切さを、コロナ禍であらためて感じました。（澤田）



図書館で発表会の様子

モモ

ミヒヤエル・エンデ作 大島かおり訳 岩波書店 1976年

この話は、聞き上手なモモという女の子が世界を救う不思議なお話です。ある日、時間どろぼう（灰色の男）が人間をだまして時間をぬすみに…。その結果、人間は忙しくなり、灰色の男

達は、時間がたっぷりある楽しい日々をすごし始めました。それを止めたいモモ。どうすれば、平和な世にもどるのか。私は、モモはとても勇気があり、やさしいなあと思いました。なぜなら世を救うためにはきけんがともなうからです。ぜひみなさんも、モモを読んでみてください。（小5 怜那）

REPORT

2021年度「えほんのひろばinきょうと」 の中止について

昨年、中止となったこども読書の日記念事業「えほんのひろば」(けやき主催)だが、今年は、コロナ禍のなかで楽しみの少ない子供達のために、密や消毒に注意して、4月25日の開催を目指して3月初旬から準備を始めた。しかし、緊急事態宣言に従い、直前の4月23日に中止を決定した。

今回も、左京図書館司書さんや絵本学習会メンバーのお勧め絵本を、手作りの面展台上に表紙見せで並べ、誰でも自由に好きな本を見つけられるよう企画した。

密を防ぐために、毎回人気の工作やテントの設置、子供達へのスタッフの読み語りを行わないことにしていた。その代わりに、仕掛け絵本の読み語りやパネルシアターなどの「赤ちゃん向けおはなし会」、『なのはなとやさい』をテーマとした低学年向きの本の紹介「ブックトーク」を予定し、各々定員20名の事前予約制にした。

残念ながら今回も中止となったが、この経験を基にして、更に楽しい安全な「えほんのひろば」を企画し、絵本の魅力を発信していこうと思う。(伊藤)

けやきの活動記録

2021年1月～2021年7月

- 1月下旬～ 「えほんのひろばinきょうと」準備
- 2/12～3/14 「図書館で発表会」展示
- 3月上旬～ ニュースレター63号原稿依頼、作成、編集
- 3月下旬～ 「えほんのひろばinきょうと」チラシ配布
- 6/23 ボランティア連絡会出席
- 7/2 総会資料印刷
- 7/2 ニュースレター63号印刷・発送

<図書館おたのしみ会に協力> (第4土曜日)
中止

<絵本学習会>
(第4金曜日、3,7,12月は第2金曜日)
3/12、4/23、6/25

<事務局会議><図書館とのミーティング>
(主に第1金曜日)
3/5、4/2、5/14 (事務局会議はメールで実施)、7/2

6/30 臨時事務局会議

<「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」サポーター活動>
(毎週木曜日 10:30～12:00)
中止

色の楽しみ 暮らしの図鑑

暮らしの図鑑編集部編 翔泳社 2020年

標識や広告は、色の見えやすさの違い=視認性・識別性をうまく利用して情報を有効に発信しています。色のもつイメージや感情は、心と体に大きく作用するので、配色でデザイン効果を上げることがもできます。暮らしのさまざまなシーンで色は欠かせない

存在です。身のまわりの色を知ると、色使いのコツをインテリアや洋服・料理に活かすことができそうで楽しくなります。かわいいイラストや写真の掲載は、見るだけでわくわくします。

シリーズの1冊で、ほかに「民藝と手仕事」「うつわ」「布」「お茶の時間」「薬膳」「グリーン」「ガラス」「文房具」があります。

(左京図書館 前田)

図書館友の会 けやき の仲間になりませんか

知りたい 調べたい 本の世界を楽しみたい

そんな私たちの望みをかなえ 一人一人の世界を豊かにしてくれる場所

それが私たちの願う図書館です

京都市左京図書館が市民みんなの図書館としていきいきとあり続けるために、私たち市民利用者は何ができるのか考え、活動したいと1999年に「けやき」を立ち上げました。図書館のスタッフとともに、左京図書館はじめ京都市図書館を支え、育てていきませんか。

次のような活動をおこなっています

であいの森

左京図書館のおたのしみ会（毎月第4土曜日 11:00）に協力。
絵本を読んだり、ブックトーク・人形劇やおはなしも。

「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」サポーター

毎週木曜日 10:30～12:00、左京図書館絵本コーナーで絵本探しのお手伝いをしたり、絵本を読んだりしています。

誰もが利用できる図書館を考える

図書館の現状を調べ学び、図書館に提案をしています。

ニュースレター編集部

友の会のニュースレター「けやき」を作成し、図書館と利用者をつなぐけやきの活動の情報を発信しています。

事務局

けやきの活動の企画提案。図書館行事に企画・協力。各グループ間や左京図書館との連絡調整を行っています。

絵本学習会

毎月第4金曜日 10:00～。取り上げた絵本をみんなで読み合い語り合う楽しい学習会です。

講演会・学習会

主催または図書館との共催で年に数回、地元の講師を中心に様々な興味深い講演会・学習会を行っています。

◆入会希望の方は年会費500円をそえ、下記郵便振込口座にお申し込み下さい。活動費の寄付も歓迎。

郵便振込口座 口座番号 00920-8-156914 番
口座名称 図書館友の会 けやき

◆入会・活動への参加などお問い合わせは下記の事務局へメールで。

◆図書館友の会けやきホームページをぜひご覧ください。
ニュースレターのバックナンバーも掲載しています。

けやき情報版

2021年度図書館友の会けやき総会 書面表決のお知らせ

会員の皆さんには別途お知らせしておりますとおり、2021年度の総会は活動報告・活動方針・会計予算・決算書を会員に郵送し、書面で承認の可否をお返事いただくことに決定しました。総会の結果は次号ニュースレターで報告します。



今号は5月28日発行予定でしたが、緊急事態宣言発令のため印刷発送を延期し7月2日発行となりました。

編集後記

コロナ禍で先の見通せない日々。修学旅行が8月に延期になった息子は「再延期になるかもと思うとこ」と珍しく弱気です。そりゃ、そういう気持ちになるよね。けやきでも今年に入って、講演会と「えほんのひろば」が中止に、このニュースレターも5月末の発行予定が7月に延期になりました。予定を予定通り行うことがこんなに難しいとは。せめてこの経験を今後に生かしたいです。（澤田）

絵本の紹介文を書くために、本を選ぼうと思い立った4月24日。この日は緊急事態宣言発令のため京都市図書館で閲覧可能な最後の日と気付きました。インターネット予約で取寄せはできませんが、色々手に取って比べたいと急ぎ図書館へ。その後、1ヶ月余を経て6月初めに制限が緩和され、利用者としては助かりましたが、図書館を使う人も支える人も、心配事はなかなか尽きませんね。穏やかな図書館の日常が早く戻りますように。（島崎）

◇けやき 第63号 2021年7月2日

◇制作 図書館友の会 けやき ニュースレター編集部
題字：吉政 富美子 デザイン：伊藤 理恵子

◇発行 図書館友の会 けやき

HP : <http://totomo-keyaki.com>

Mail : info@totomo-keyaki.com